



発行日：平成 23 年 7 月 1 日
 発行元：社会福祉法人すずらの会
 理事長 大長 義信
 〒252-0328
 相模原市南区麻溝台 7-1-7
 TEL: 042-749-8881
 URL: <http://www.suzuran.or.jp>



巻頭言 ～ 非常事態に備える ～

理事長 大長 義信

昨年の夏の暑さは格別でしたが、今年の夏はどうなるのでしょうか。3月の東日本大震災以来、日本中が節約・緊縮モードに入ってしまったようですが、こればかりでは我が国の経済が立ち遅れてしまうと云う事もあり、公私に亘り難しい選択を迫られています。大震災直後に実施された計画停電の法人施設への影響は、限定的であったと言えました。なぜか一度も停電にならなかった施設や、グループホームの一部では何回かの停電を経験し、改めて電気のありがたさを再認識した施設もありました。

交通機関がマヒした時には、就労先からグループホームに帰宅できない施設利用者が何人か出て、この様なケースへの対応策に苦慮しましたので、予めリスク回避をマニュアル化しておくことの重要性を痛切に感じています。

福島原発がダウンしてしまった事で、夏場の電力需要が供給能力を超え、ある日突然供給がストップする



節電取り組み中



危機は何としても回避してもらわなければならず、微力ながら法人でも〈計画節電〉に今夏は取り組んでいます。事業所毎に具体的な節電アイディアを挙げて取り組むようにしました。目標は昨年実績比20%ダウンとし、電力使用量が支払電気料金で測定し成果を公表する事にしました。

我が国のリスク管理が欧米諸国のそれと比較して決定的に異なる事は、リスクに対する視野の狭さと底の浅さだと云われています。だから、なかなか最悪の事態に備える事が出来ないということのようです。

災害のあるたびに想定外の災害として対処するようでは、対応が後手後手になることも当然の事のように思われます。未曾有の災害を教訓として、次に同じような災害や事故が発生した時に適切且つ迅速に対処できるようにマニュアルを整備しておかなければなりません。



一部施設で導入している
電力監視システム

「利用者聞き取り調査から見えてきた事」

サービス向上委員会 委員長 澁井 泰子

～ 不祥事を未然に防ぐために ～

平成 21 年度の利用者聞き取り調査に引き続き、22 年度も聞き取り調査を実施いたしました。県内他法人での不祥事報告を契機に始められた聞き取り調査ですが、今回の聞き取り目的を「法人及び各事業所に対する満足度確認、要望の吸い上げ、日常支援の客観視に役立てる」とし、対象者は日中活動各事業所利用者とホーム利用者とししました。実施期間はまとめを含めて6月から12月まで7か月間、実施方法は21年度同様、各事業所から聞き取り員を選出し、自分が所属していない事業所へ出向いて聞き取り票をもとに利用者とは話をし、聞き取り結果を当該事業所とサービス向上委員会に報告をするという形をとりました。委員会では聞き取り結果報告書をもとに内容検討を行い、各事業所に対して聞き取り結果確認依頼書、ないしは聞き取り結果検討報告書を提出して利用者の声の受け止めに努めました。

まとめとしては、聞き取り利用者総数 235 名、聞き取り結果確認依頼数 50 件、全体的な聞き取り内容からうかがえるのは、利用者との関係は親和的ですが、利用者が感じていることと職員が感じていることは温度差があるということ、また利用者は話をしたがっている、職員はさらに利用者の声を聴く耳を持つ姿勢が必要であるということでした。この報告書を法人に提出した後、また県内他法人での不祥事が報告されました。私達もサービス提供者としての姿勢が問われています。今後も利用者の声を真摯に伺い、受け止めていくこれらの活動を継続していきます。

特集

『ライフステージ』 その1 (幼児期～17歳)

今月号から始まる特集は、障害のある人とその家族が人生の中で節目に直面する時期に向けて、法人資源も含めた様々な相談窓口と選択肢の紹介を、幼・少年期から成人期・老年期の段階に分け掲載します。

↑乳幼児期↓

相談

- 病院 (助成制度等申請含む)
- 保健所
- 保護者間情報
- 療育センター
- 言語・聴覚・視覚・肢体 各専門機関

幼稚園
保育園

- 病院
- 児童相談所
- 行政 (相談・各種申請)

相談

療育

- 療育センター
- 民間療育施設 (児童デイサービス・自費など)

余暇

- 習い事
- ガイドヘルプ
- サークル活動

家族支援

児童デイサービス (預かり)

- 短期入所施設
- 日中一時支援

(学校)

教育

行政 (福祉サービス申請)

余暇

- ガイドヘルプ
- 習い事
- サークル活動

家族支援

- 短期入所施設
- 日中一時支援

相談

- 病院
- 保健所
- 行政 (進路・就労相談・各種申請)

ヘルピングハングスやまと
046-261-2080

すずらんの会
日中一時支援

大和市在住小学生対象

一時的に障害児童をお預かりし、療育プログラムをもとに余暇支援を提供します。送迎はありません。(土曜日のみ開所)

すずらんの会 療育

《ばれっと》と《ばれっとフレンド》では発達にご心配のあるお子さんに対して、原則として17歳までのお子さんは児童デイサービス事業で18歳以上の方は実費で臨床心理士・言語聴覚士が支援を行っています。支援内容は右記の通りです。

様々な年齢の方と継続的にお付き合いをさせて頂くなかで、年齢が上がるにつれて獲得すべきスキルが変化して行く事、また、成人後により快適に生活をしていくために今必要なこと、などを知る事ができ、皆様と共にスタッフも成長させて頂いております。「今」だけではなく、卒業後、就労後などの「将来」を見据えた支援を心がけていきたいと思ひます。
言語聴覚士 大木 泉 ばれっと ☎042-748-1178
ばれっとフレンド ☎042-711-9009

- ①お子さんの支援
※問診・発達検査など
※個別指導
※小集団指導
認知・言語面、学習面、生活面、
ソーシャルスキルなど

専門職による 療育

- ②保護者支援
相談・アドバイスなど

- ③他関連機関との連帯
幼稚園・保育園・学校・
病院・療育施設・余暇施設
(訪問・情報交換など)

↑幼児期↓

↑学齢期↓

平成22年度苦情解決委員会活動報告

委員長 松屋 直人

非常に残念なのですが、障害福祉について全国的に高いレベルにあると思われていた県内で、数年前から様々な利用者に対する不祥事の発生が報じられています。しかも、各地域において指導的な役割を担っていた法人での出来事も多く、掛け声だけではない、地に着いた対策が必要である事を、痛感させられています。

日常的なサービス向上に向けての努力が、利用者からの苦情や不祥事への最も効果的な防止対策であるという考えから、日々の様々なやり取りの中で、利用者及びその家族・近隣の方・関係機関・職員から我々に投げかけられる多くのご意見やご要望等を聞き逃すことなく、必要なものについては適切に改善を行うことを目的として、苦情解決委員会の活動を行っています。

オンブズマン等の外部の方に入っていただく事も県内では広く行われていますが、まず自身で日常的に利用者等の声を聞き、それを運営に反映していかない限り、効果的なサービス向上に繋がらないのではないのでしょうか。

具体的な委員会の活動内容は、職員が聞き取った要望等の内容とそれへの対応結果についての報告書を、各事業所から当委員会宛提出してもらい、毎月開催される第三者委員と職員で構成されるワーキンググループが、事業所の対応の可否について検討し、必要な場合には事業所に検討を指示するとともに、法人全体にその内容を周知し、サービス向上活動に繋げています。なお、最近3年間の苦情等の件数は下記表の通りでした。

苦情等の件数の推移

年度	苦情	クレーム・要望	みんなの声	合計
平成20年度	0	28	9	37
平成21年度	0	34	4	38
平成22年度	0	25	5	30
合計	0	87	18	105



《法人全体 財産目録》

[単位：千円]

資産の部		負債の部	
基本財産	648,454	流動負債	62,343
運用財産	557,476	固定負債	79,200
		引当金	29,544
資産合計	1,205,930	負債合計	171,087
差し引き正味資産			1,034,843

《法人全体 貸借対照表》 [単位：千円]

借方	貸方		
流動資産	262,972	流動負債	62,343
固定資産	942,958	固定負債	108,744
		(負債合計)	171,087
		基本金	312,267
		積立金	423,469
		運用財産基金	3,490
		繰越金	295,617
		(純資産計)	1,034,843
資産合計	1,205,930	負債・純資産計	1,205,930

《法人全体 収支計算表》 [単位：千円]

支出		収入	
就労支援事業(授産)支出	135,716	就労支援事業(授産)収入	147,667
人件費支出	492,924	自立支援給付費収入	516,426
事務費支出	155,570	補助金収入	121,904
事業支出	33,716	介護保険収入	13,601
減価償却費	23,198	寄付金収入	8,474
退職給与引当金繰入	4,322	雑収入	23,666
繰入金支出	55,452	借入金償還補助金収入	12,413
借入金利息支出	1,291	利用者負担金	41,414
その他	76,160	借入金利息補助金収入	1,291
		国庫補助金等特別積立金取崩し額	9,671
		繰入金収入	84,540
合計	978,349	職員待遇改善助成金収入	15,940
当期繰越金	18,658	合計	997,007

【障害者自立支援法 障害福祉サービス実施事業所決算】

《貸借対照表》 [単位：千円]

借方	貸方		
流動資産	231,489	流動負債	51,020
固定資産	906,542	固定負債	102,303
退職共済預け金	23,103	(負債合計)	153,323
		基本金	293,754
		積立金	423,469
		運用財産基金	0
		繰越金	290,588
		(純資産計)	1,007,811
資産合計	1,161,134	負債・純資産計	1,161,134

《収支計算表》 [単位：千円]

支出		収入	
就労支援事業(授産)支出	129,314	就労支援事業(授産)収入	141,492
人件費支出	410,582	自立支援給付費収入	514,572
事務費支出	128,788	補助金収入	65,747
事業支出	33,184	介護保険収入	13,601
減価償却費	22,976	寄付金収入	7,354
退職給与引当金繰入	3,309	雑収入	17,873
繰入金支出	70,475	借入金償還補助金収入	12,413
借入金利息支出	1,291	利用者負担金	41,406
その他	76,160	借入金利息補助金収入	1,291
		国庫補助金等特別積立金取崩し額	9,671
		繰入金収入	48,337
合計	876,079	職員待遇改善助成金収入	15,141
当期繰越金	12,819	合計	888,898

- 〔該当事業所〕
- ・ワークショップ・フレンド
 - ・ワークショップ・SUN
 - ・グリーンハウス
 - ・ワークセンターやまと
 - ・すずらの家
 - ・ホームすずらん
 - ・あいあいS
 - ・はれっと

すずらの会 後援会様より
ご寄付を頂きました。ホームの整備や各事業所の
節電対策に活用させていただきます。

この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

寄付

事務長 千田 博伸

【決算概要】

平成 22 年度は、収入総額 997,007 万円(前年比：102%) 支出総額 978,349 万円(前年比：105%)で決算されました。支出については増加傾向とはなりませんが、当期繰越 1,866 万円を計上し概ね健全な結果を出すことができました。

平成 22 年度の収入は、実施サービスの変更等による減収が見込まれましたが、余暇支援活動の定着で利用者の利用率の向上が図れたため、自立支援給付費収入等はほぼ前年度の水準(65,193 万円 前年比：98%)を保つことができました。授産活動においては、受注会社より職員人件費対応の収入(14,149 万円 前年比：110%)があり全体では当初計画に対して 109%の結果となりました。

また、支出については、各事業者とも経費節減を心掛けて施策に取り組んでもらったところですが、計画に対しては 115%となっています。これは、計画外で施設整備(グリーンハウス)の支出があったことでもあります。今後の運営を見据えた各種積立(7600 万円)を戦略的に支出計上したことが主な増要因となっています。

現行制度の中で自立支援給付費収入に関しては、実施サービスの変更から報酬単価の減額を余儀なくされる経営が続いています。そのような状況の中で、利用者の利用率の向上施策が定着してきたことは明るい材料となっており、今後もその利用状況を維持していくことは健全な運営を継続していくための必須条件になると思われます。その意味からも、利用者の人権を尊重しつつ、サービスの拡大などを含め事業目的に沿ったサービス品質の維持向上に努めることが大切です。

サロンコンサート
10月8日開催予定
フェスタすずらん
10月29日開催予定

定時採用職員

- ワークショップ・フレンド・・・藤倉 翼
- はれっとフレンド・・・浅井 沙央里 ・ 中山 恵理
- 大和市障害者自立支援センター・・・松川 亜希子
- ワークセンターやまと・・・上杉 直也
- すずらの家・・・仁平 幸宏

《編集後記》

今年度の<特集>のタイトルは『ライフステージ』です。それぞれの時期に応じて、すずらの会の施設紹介もしていきます。判断材料のひとつとして、少しでもお役に立てればと思います。

